

令和7年度 第2回佐賀県立鹿島高等学校学校運営協議会 議事録

日 時：令和7年11月5日(水) 15:00～16:30

場 所：鹿島高等学校赤門学舎図書室

参加者：17名【委員(10名)】【事務局(4名)】【校内委員(3名)】

I 学校長挨拶

※学校運営協議会の会議の前に、運営委員の方に授業参観をしていただきました。

- ・未来探求進学コース（2年1室）の授業の説明
- ・本日の防災教育の授業について 〈テーマ：鹿島市の防災について考える〉
- ・未来探求進学コースの3つの柱「教科横断型探求」「個人課題探求」「キャリア探求」についての説明

➤ 本校の実態について

「本校の特色は、鹿島にある唯一の伝統ある新しい県立学校であるということ。」

○本校の3つの魅力について

- ・歴史を感じる、落ち着いた学習環境
- ・純朴で素直な生徒たち
- ・同窓生、地域の方の力強い応援 ← 学校運営協議会の取組にも大きく関わってもらっている。

○本校の力を入れている取組について

- ・学力の向上、専門性の向上 → 希望進路の実現
- ・人づくり → 人間力の向上、学校の活性化、生徒の自己有用感・自己肯定感の高揚、地域を担う人材の育成
 - ✧ 学校行事、部活動、ボランティア活動の積極的な参加によって、人間力の育成を図る。
 - ✧ 旭ヶ岡キャリア塾、総合的な探究の時間「鹿島さいこうプロジェクト」の取組も、人づくりに大いに寄与している。
 - ✧ 鹿城祭では、2つの学舎の生徒が交流し、競い合い、認め合い、高め合う姿がみられた。新しい鹿島高校の形を示している。

○本校の課題・・・普通科の大幅な定員割れ

〈外的要因〉 西部地区の生徒数の減少、近隣の中高一貫校への流出、学区の拡大、JRの利便性の低下、私立高校の授業料の無償化、県外への流出

〈内的要因〉 進学実績の低下、コース制導入（特に未来探求進学コース）の理解・認知度の低さ、中学生の普通科離れの傾向

○課題への対策

- ・中学校の先生方に新コースについて改めて丁寧に説明し、理解促進を図っていく。
- ・学校紹介動画等、生徒が前面に出て本校の魅力をアピールするなど広報活動の工夫を図っていく。
- ・生徒の学校生活満足度を上げるために、なお一層、様々な行事の充実に取り組んでいく。
- ・職員は、「生徒を認めて、ほめる」という意識をもって教育活動を行う。

- ・進学実績の向上について今後も継続して取り組んでいく。

○まとめ

学校運営協議会は、キャリア教育、人づくりを含めた学校の魅力づくりに大きく貢献していただいている。11月にコミュニティー・スクールの研究大会で鹿島高校の取組について発表をした。鹿島高校は、コミュニティー・スクールがうまく機能している学校として評価されている。また、テレビ番組のニュースでは、旭ヶ岡キャリア塾・キャリアラボの取組が紹介された。加えて、新聞報道でも、佐賀大学と鹿島市の共同研究の紹介記事の中で、鹿島高校生の社会貢献に対する意識の高さが評価されている。

○今後の方向性

学校運営協議会の活動が高い評価を得て、学校の中でも大きな位置づけになっているので、今後も継続して行っていきたい。旭ヶ岡キャリア塾の活動は、キャリア教育部会の幅広いネットワークのおかげで成り立っているので感謝を申し上げると共に、運営委員、担当が変わってもスムーズに進めることができるようにしていかなければならない。形骸化することなく、ワクワクするような取組になるようにということと、活動の維持のために負担を減らし、サステナブルな形にしていくことを検討していかなければならない。

II 会長挨拶

- みなさまのご尽力に感謝したい。11月10日の「旭ヶ岡キャリア塾Stage4」についてもよろしくお願いします。
- 議論することが大事なので、この学校運営協議会自体も形骸化しないようにしていきたい。この学校運営協議会の意義についても、校長からお話をいただいたところですが、良い意味で活動を整理し、シャープにできるところはしていかないといけない。メンバーが変わっても継続していくように良い議論ができるべきだと思う。

III 報告

1 令和7年度上半期活動実績及び下半期活動計画について

2 キャリア教育部会から

- 「旭ヶ岡キャリア塾Stage4」について
今回も、多種多様なキャリアの方をお呼びすることができた。午前中のシンポジウムに向けて、事前にワークショップを行い、高校生が現在関心のあることやシンポジストの方に尋ねたいことをまとめている。シンポジストと生徒のかけあいで進んでいく形となる。
- (事務局から) 第1回学校運営協議会の際に出た意見を踏まえて、今年度は、中学校の教員や保護者の方にも案内していただくように、中学校に依頼をした。県立高校、鹿島高校の保護者の方にも案内をしている。また、鹿島市からプレスリリースをしていただいた。

➢ 「旭ヶ岡キャリアラボ」について

鹿島市地域おこし協力隊に毎週金曜日に来室していただき、来年度に向けて学校紹介動画の作成や、総合的な探究の時間の「鹿島さいこうプロジェクト」のサポートをしていただいている。今後、キャリアラボミニセミナーの活動を増やせればよいと考えている。

3 魅力化評価部会から

(1) 令和7年度学校評価計画（中間評価）について

- ・ 教務部「学力向上（授業改善と指導力向上）の項目」・・・B評価
授業改善については、公開授業等を活用しながら、先生方へ授業改善の取組を促していく。
- ・ 進路指導「学力の向上（進路指導の充実と生徒の進路保障）」の項目・・・B評価
「本校の進路指導に満足している」と回答した生徒全体の割合は92.6%、3年生は83.9%であった。今後も、一人ひとりの進路目標に応じた手厚い進路指導を行い、最終的にはA評価になればと考えている。
- ・ 生徒指導部「健康・体づくり（安全に関する資質・能力の育成）」の項目・・・B評価
ヘルメットの着用率については、着用している生徒がなかなか増えない状況である。生徒が自らの安全を自分事として考え、自らの意志で着用するというところまでもっていきたいが、かなり時間がかかるだろう。命の安全が最優先という観点から、生徒指導部を中心に着用率アップのために啓発を続けていく。
- ・ 「業務改善・教職員の働き方改革の推進」・・・B評価
先生たちの意識の変化も見られ、全体的に時間外在校時間は短くなっている。4月～9月の時間外在校時間の月平均は、赤門学舎26時間29分、大手門学舎25時間57分。年次休暇の取得については、9月末現在で10日以上の取得者は、赤門学舎41名中23名、大手門学舎20名中7名。年間14日以上の取得に向けて、管理職からも声かけを行っているところである。
- ・ 重点目標「SAGA唯一無二の学校魅力化促進授業」・・・A評価
学校運営協議会の運営委員の皆様のご協力を賜りながら、進めているところである。

(2) 令和7年度高校魅力化評価について

➢ 令和7年度学校重点目標と生徒対象のアンケート結果 〈7月～8月実施〉

- | | | | |
|---------------------------------------|-------|------|-------|
| (1) この学校を中学生に勧めることができる。 | 70.2% | (目標) | 80.0% |
| (2) この学校に入ってよかったですと思う。 | 83.2% | (目標) | 80.0% |
| (3) 自分の将来について明るい希望を持っている。 | 73.9% | (目標) | 80.0% |
| (4) 将来、自分の住んでいる地域のために役立ちたいという気持ちがある。 | 75.6% | (目標) | 80.0% |
| (5) 学校で学習することで、自分ができることや、したいことが増えている。 | 82.1% | (目標) | 90.0% |

(事務局から) 第2回の生徒対象のアンケートは、2学期末に実施予定。第3回の学校運営協議会で、第2回アンケート結果と大人対象（運営委員、学校職員）のアンケート結果の共有を行う予定。

4 地域連携部会から

- ・「高校生サポーター」・・・年間を通して、地域へのボランティア活動に参加。今年度は、のべ544名（高校生ティーチャーを含む）の本校生が参加。〈10月17日現在〉
- ・「高校生ティーチャー」・・・7月～8月に、地域の小学生を対象に、宿題サポート、絵画、スポーツ、プログラミング教室を実施。今年度は、のべ182名の高校生が参加。のべ402名の小学生が参加。
- ・コミュニケーション・スクールの研究大会で、赤松小学校と意見交換した。地域の中で高校生が活躍することは、地域の方も喜ばれるし、地域の活力につながっている。鹿島市としても、若い人たちの意見をもっと生かす場をつくっていきたい。
- ・鹿島市高校生広告課の取組として、鹿島高校と近隣の高校の計20名の高校生が鹿島市のロゴとキャッチコピーの作成を行ってきた。生徒たちの感想は、他校の生徒との交流を通して多くの刺激をもらっているということで、大変好評であった。今後は、高校生に作成してもらったロゴとキャッチコピーを活用しながら、鹿島市の魅力を発信していきたい。
- ・学校と地域との連携については、今後も意見を交わしながら進めていきたい。支援という形ではなく、協働という形でやっていきたいと考える。

◎運営委員からの意見・質問等

➤ 旭ヶ岡キャリア塾について

- ・現在、キャリア教育部会のコネクションを活用して、生徒と年齢が近い講師の方を探している。講師のリスト化も必要である。また、講師をやってみたいという人もいるはずなので、その人たちがどのようにして運営側にアクセスするのかというところも検討していきたい。
- ・人材バンクのようなものがあった方がよいと思うが、その場合の管理はどうするのか？
- ・持続可能な形にするために、仕組みづくりが必要である。
- ・昨年度から、鹿島実業高校の卒業生にも多く声をかけてもらい、講師の職業の幅が広がっていると感じる。
- ・現在、40代と20代のネットワークはある。社会人の経験をある程度積んだ30代のネットワークが不足している。30代の女性の講師にも来てほしい。
- ・年齢層を広げてもよいと思う。
- ・旭ヶ岡キャリア塾は、生徒が「なりたい自分、なりたい職業」がある時に、高校の先生たちの立場からの進路指導と、加えて民間の立場から生徒を応援する、というコンセプトで始まった取組である。卒業生の力は唯一無二なので、卒業生の力を借りて持続可能な形で今後も続けていきたい。
- ・今年度の講師の方々にも、「いい人いたら紹介してください。」と声をかけましょう。

➤ 高校魅力化評価結果について

- ・「この学校に入ってよかったと思う。」という項目では、8割以上の生徒が肯定的に回答しているが、なぜ「この学校を中学生に勧めることができる」の項目では、7割程度なのだろうか。なぜ、学校を勧められないのかについて、生徒に理由を尋ねていますか？
 - ➡ 新聞での志願倍率の公表が少なからず生徒の回答に影響しているのではないか。
 - ➡ アンケート結果の分析のために、学校運営協議会等の場面を利用して、生徒と大人（学校

運営協議会運営委員、職員)がアンケート結果を共有し、意見交換、協議の場を設けられないかと検討中。

- ➡ 学校評価でも、「この学校を中学生に勧めることができるか」を生徒に質問している。否定的な回答をしている生徒については、その理由を尋ねている。理由としては、「課題が多いというイメージ、駅から校舎までの距離の遠さ、電車の不便さ、周りに楽しく遊べる施設等がない」などの意見が見られた。
- ・ 小学校から近隣の中高一貫校に進む子どもたちも多いと聞いている。
鹿島市の小学校、中学校の今年度の目標は「鹿島を愛する子どもたちを育てる」ということである。小学校でも、地域の人たちを普段の授業や総合的な学習の時間にどんどん招くことで、地域の人たちから学ぶ時間を設けている。地域の人々との触れ合いを通して、子どもたちの地域を愛する気持ちを育てていきたいということを考えながら指導にあたっている。
- ・ 「この学校を中学生に勧めることができる。」という数値が高くないのは、「鹿島高校を嫌い」とかではなく、校長先生が冒頭で言われた外的要因、急激な社会状況の変化による影響が大きいと考える。この現状を踏まえて、中学校でも「地元で学ぶ、地元で育つ、郷土を愛する」といった話を全校集会等で子どもたちに伝え、「地元に残る、郷土で学ぶ」という選択肢を子どもたちに投げかけている。進路指導の際にも生徒にそのことを話している。

○各部会協議後の報告

- キャリア教育部会・・・オープンチャットをつくって、キャリア塾の講師の紹介に活用したり、情報共有をしたりして、ネットワークを広げていきたい。
- 魅力化評価部会・・・部会の今後の予定の確認。
小学校の保護者の方々に魅力を発信していくことが今後大事になってくるのではないかと考える。
- 地域連携部会・・・高校生ティーチャーは、小学生対象だが、中学生とともに一緒に取り組むことができれば、中学生へのアピールになるのではないだろうか。高校生サポーターについても、イベント等に中学生と高校生が一緒に参加することで、鹿島高校の魅力発信につながるのではないかと考える。